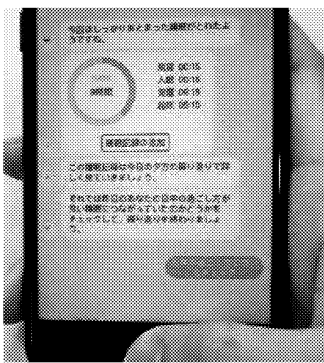


「生活習慣病」アプリで治療

スタートアップ企業がスマートフォン（スマホ）のアプリで患者の生活習慣を指導する治療法の臨床試験（治験）に相次ぎ入る。キュア・アップ（東京・中央）は10月に国内初の禁煙治療アプリの治験を始めた。サスメド（同）も年度内に不眠症治療で治験を開始する。薬や医療機器に続く第3の治療手段としての普及を目指す。

キュア・アップ 禁煙

サスメド 不眠症



スマホが不眠症の治療に向けた指示を出す

▼治療アプリ 特定の病気を治療するために使われるソフトウェアのこと。2014年11月施行の医薬品医療機器法（旧薬事法）でソフトも医療機器として認められるようになった。臨床試験（治験）を通じて医学的データを示し承認を得られれば、保険適用を受けられる。

▼治療アプリ 特定の病気を治療するために使われるソフトウェアのこと。2014年11月施行の医薬品医療機器法（旧薬事法）でソフトも医療機器として認められるようになった。臨床試験（治験）を通じて医学的データを示し承認を得られれば、保険適用を受けられる。

VBが開発、治験入り

禁煙外来の効果は高いとはいえず、7割の患者が治療1年後に再び喫煙してしまふ。「短い診察時間では説明が行き届かない場合がある。アプリでフォローできれば、次の診察時に適切な対処をとりやすくなる」と慶応大学医学部の福永興彦専任講師は期待する。臨床試験の段階では、治療を始めて半年後に67・9%が禁煙を継続できていた。治験は19年3月までを予定。2年後の実用化を目指す。

同社にはベンチャーキャピタル（VC）のビヨンドネクスストベンチャー（東京・中央）や慶応インベーション・イニシエティブ（東京・港）など米国では日本に先んじて治療アプリの実用化が始まった。米食品医薬品局（FDA）は既にソフトウェアを保険適用の対象に承認申請に向けて動く（2016年6月時点）。

「現状は糖尿病や心疾患などの生活習慣病向けに、医師による遠隔指導や服薬の順守として活用されているが、今後5〜7年で対象範囲が一層広がるだろう」。米調査会社ヘルスケア部門トップを務めるレニー・タスも期待を集めそうだ。

治療アプリは米国などでも立ち上がったばかりだ

企業名	対象疾患
現 状	
ウェルドック	糖尿病
米食品医薬品局（FDA）から承認取得。保険会社と組み、利用できる	
ヌーム	糖尿病予防
公的機関の糖尿病予防プログラムの対象に	
ヒアセラピューティクス	薬物依存症
FDAから承認を取得	
イスラエル	肺がん
承認申請に向けて動く（2016年6月時点）	
キュア・アップ	禁煙、非アルコール性脂肪肝炎
10月から日本初の治験開始	
サスメド	不眠症
17年度内の治験入りが目標	

治療アプリ、米は実用化 医療費抑制に期待も

米食品医薬品局（FDA）は既にソフトウェアを保険適用の対象に承認申請に向けて動く（2016年6月時点）。

「現状は糖尿病や心疾患などの生活習慣病向けに、医師による遠隔指導や服薬の順守として活用されているが、今後5〜7年で対象範囲が一層広がるだろう」。米調査会社ヘルスケア部門トップを務めるレニー・タスも期待を集めそうだ。

「現状は糖尿病や心疾患などの生活習慣病向けに、医師による遠隔指導や服薬の順守として活用されているが、今後5〜7年で対象範囲が一層広がるだろう」。米調査会社ヘルスケア部門トップを務めるレニー・タスも期待を集めそうだ。